

研究成果の公表方法について

1. 公表する研究成果関係資料

- ・ 研究終了報告書
- ・ 研究概要（日本語・英語）
- ・ 成果報告レポート

ISSN 1883-3594

研究終了報告書 【様式1】

道路政策の質の向上に資する技術研究開発

【研究終了報告書】

氏名	所属	役職
①研究代表者		
氏名	所属	
②研究テーマ	③研究経緯	
④研究費	⑤研究の目的・目標	

研究概要 【様式3】

『道路政策の質の向上に資する技術研究開発』（平成22年度採択）
研究概要（イメージ）

番号	研究課題名	研究代表者
No.22.1	都市高速道路における突発事象時の最適交通運用に関する研究開発	東京工業大学 教授 鎌倉 康夫

都市高速道路上で発生する交通事故等の突発事象をできる限り速やかかつ正確に検出し、その事象によって生じる通行時間の変化を予測して利用者へ提供することにより、インシデントによる社会的費用の増大をできるだけ抑制しうる交通運用方法の研究開発を行った。

1. 研究の意義・目的（研究開発の意義・動機、目標等）
信頼性の高い道路サービスを実現するには、事故などの突発事象の際に、利用者ニーズに合わせた質の高い交通情報の提供を行うとともに、突発事象の影響を最小限に抑える交通運用を行うことが必要である。本研究の目的は、都市高速道路で発生する突発事象による渋滞に重点を当て、その渋滞で正確な検出と渋滞時の通行時間予測の方法を開発するとともに、交通情報提供下での利用者行動の分析を踏まえた交通運用の最適化手法の研究開発を行うことにある。具体的には、以下の点を目標とする。
(1) 突発事象の検出とシミュレーションによる交通状況予測手法の開発
(2) 検測データを活用した交通情報提供下での利用者行動の調査と分析
(3) 突発事象の発生を最小化する交通運用方法の開発

2. 3ヵ年の研究内容（研究の方法・進捗等）
【平成22年度】
(1) 突発事象の検出と情報提供に関する国内外の研究技術開発の動向調査と課題の整理
(2) 突発事象の検出と交通ネットワークシミュレータに関する基礎理論の開発
(3) 突発事象発生時の情報提供による利用者の行動変化に関する調査・分析手法の開発
【平成23年度】
(1) 突発事象検出およびシミュレーションによる交通状況予測手法の開発
(2) 突発事象時の利用者行動調査の実施と基礎集計
(3) 情報提供による突発事象時の交通運用手法の開発
【平成24年度】
(1) 突発事象の検出と交通ネットワークシミュレータの検証と改良
(2) 突発事象時の行動モデルの開発と情報提供下での行動分析
(3) 利用者行動を組み込んだシミュレータの改良と効果的な情報提供に関する検討

3. 研究成果（調査・実証等全経緯と今後の予定）
(1) 突発事象時の検出、解析と交通運用に関する研究開発動向の把握：交通インシデント検出、シミュレーションによる交通状況予測、情報提供下での交通行動分析について、文献調査・研究動向調査を行い、研究課題を明らかにした。
(2) 突発事象の検出とシミュレーションによる交通状況予測手法の開発：車両感知器データを用いて、突発事象を原因とする渋滞の発生の有無やその先頭位置を検出する方法を開発した。突発事象時の通行時間予測のためのネットワークシミュレータを開発して都市高速の状

成果報告レポート

ISSN 1883-3594
No. 17-0


道路政策の質の向上に資する技術研究開発
成果報告レポート
No. 17-0

研究テーマ
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

平成○年○月

研究代表者：○○○○○○○○ ○○○○
共同研究者：○○○○○○○○ ○○○○

新 道 路 技 術 会 議

2. 研究成果の公表方法

- ・ 事後評価結果については、新道路技術会議のホームページ上において、PDF形式で掲載するなどにより公表
- ・ 成果報告レポートについては、冊子を作成し、国立国会図書館、国土交通省（図書館、道路局）、国土技術政策総合研究所（図書館、道路研究部）にて保管し、閲覧できるようにするとともに、ISSN番号を取得
(ISSN 1883-3594 道路政策の質の向上に資する技術研究開発成果報告レポート)
- ・ 事後評価が「A」評価となった案件については、「優秀技術研究開発賞」として表彰するとともに記念品（表彰盾）を贈呈